目次

序文 vi

謝辞 vii

編者、各章の著者および査読者 viii

略語 xi

用語集 xx

1 序論 1

1.1 序論 2

1.2 背景：災害・健康危機管理と研究 6

1.3 災害・健康危機管理の政策と研究の歴史的発展：日本の事例に学ぶ 16

2 課題の同定と把握 37

2.1 疫学的手法を用いた災害影響の評価 38

2.2 災害の健康影響の評価 54

2.3 疾病負担：エビデンスを創出し、政策を導く 63

2.4 災害疫学のツール：データベースと登録 77

2.5 ハイリスクグループの特定と災害研究への参加促進 88

2.6 科学的エビデンスの現状：エビデンスとシステマティックレビューの位置づけ 105

2.7 研究の優先順位 123

3 研究スコープの決定 137

3.1 結果の評価およびステークホルダー参画の検討のためのアセットマッピング 138
3.2 災害のリスクファクター：ハザード、曝露と脆弱性 154
3.3 災害・健康危機管理における研究的介入のデザイン 167
3.4 研究倫理 187
3.5 リサーチクエスチョンの決定 203
3.6 課題の評価とスコーピングレビューの構築 217
3.7 政策と新規研究をサポートする研究リソース 227

4 研究デザイン 241

4.1 介入効果評価の研究デザインの基本原則 243
4.2 課題の評価：基本的統計 255
4.3 クラスターランダム化比較試験 272
4.4 良質なデータの収集と管理 283
4.5 発展的統計テクニック 295
4.6 健康関連リスクのモデル化 309
4.7 災害・健康危機管理における経済的影響の評価 323
4.8 地理情報システム 344
4.9 リアルタイム症候群サーベイランス 357
4.10 災害・健康危機管理の介入の研究・評価におけるロジックモデルの活用 375
4.11 災害・健康危機管理におけるコミュニケーションの研究と研究のコミュニケーション 397
4.12 質的研究 413
4.13 混合研究法を用いた複雑性への対処 435
4.14 災害下における自然実験 451
4.15 モニタリングと評価 467

5 研究プロセスと研究成果を論証する特別テーマ 485

5.1 災害時のメンタルヘルス研究 486
5.2 クラウドソーシングを用いたデータ収集 506
5.3 難民および国内避難民 520
5.4 先住民 535

6 新たな研究ニーズへの対応 553

6.1 新型コロナウイルス感染症の流行下における災害・健康危機管理研究 554

7 研究者の手引き 581

7.1 研究者として成功するために 582

7.2 既存の研究報告の検索とアクセス 594

7.3 有効な研究グラント申請書の書き方 613

7.4 倫理審査による承認取得 622

7.5 災害・健康危機管理におけるフィールド研究 636

7.6 研究論文の書き方 646

7.7 災害・健康危機管理研究をするということ 655

日本語翻訳の出版にあたり監訳を務めた東北大学災害科学国際研究所及び以下の専門家に謝意を示します。

監訳責任者

江川新一(東北大学)

監訳協力者

赤星昂己(国立病院機構本部 DMAT 事務局)、伊藤潔(東北大学)、稲葉洋平(東北大学)、大鶴繁(京都大学)、尾島俊之(浜松医科大学)、越智小枝(東京慈恵会医科大学)、甲斐聡一朗(兵庫県災害医療センター)、加古まゆみ(広島大学)、金谷泰宏(東海大学)、川瀬鉄典(兵庫県災害医療センター)、木下真里(高知県立大学)、國井泰人(東北大学)、久保達彦(広島大学)、栗山進一(東北大学)、児玉 栄一(東北大学)、佐々木宏之(東北大学)、佐藤翔輔(東北大学)、杉浦元亮(東北大学)、鈴木正敏(東北大学)、髙田洋介(日本赤十字広島看護大学)、高橋昌(新潟大学)、内藤久貴(熊本大学)、野村周平(慶應義塾大学)、原田奈穂子(岡山大学)、藤井進(東北大学)、セバスチャン・ペンメレン・ボレー (東北大学)、増野園恵(兵庫県立大学)、エリック・マス(東北大学)